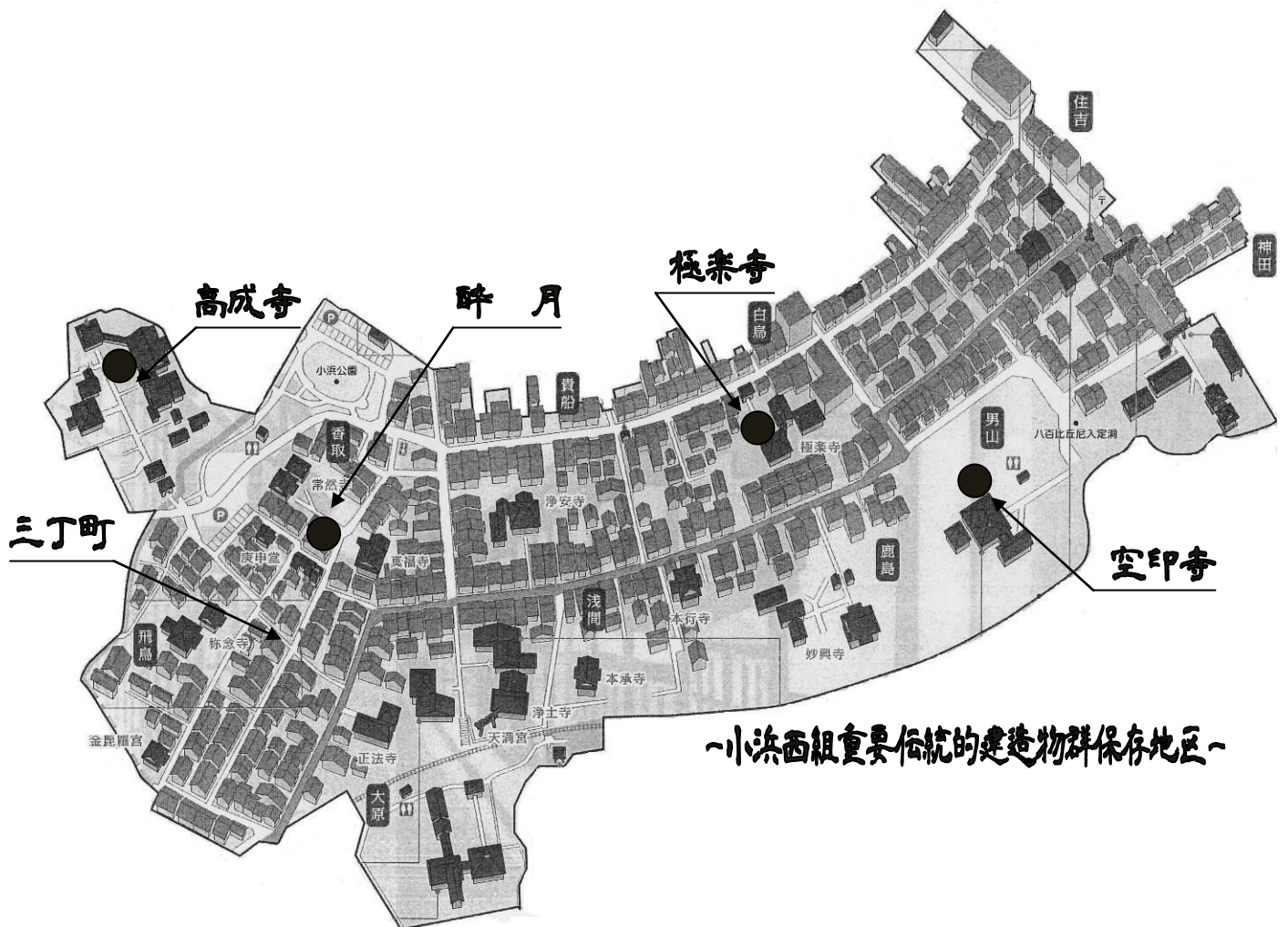


文化遺産めぐり

part IV

～ 飯盛寺と小浜西組探訪 ～



2010. 6. 27

小浜市連合婦人会

文化遺産めぐり

日時：平成22年6月27日（日） 9:00～14:40

行程

若狭ふれあいセンター



9:00 出発

さあ、出発！！

一路、加斗の飯盛寺を目指します。
楽しい一日にしましょう。

飯盛寺



9:20～10:10

重要文化財 飯盛寺本堂

市指定 木造千手観音立像

※ 時間があれば不動の滝まで

高成寺



10:30～11:30

県指定 木造千手観音立像

その他、重要文化財を含む多くの文化遺産
が伝世しています。

昼食



11:30～12:30

四季彩館 酔月

旧料亭の「酔月」を改装した食のまちづく
り・観光の拠点施設。

三丁町周辺散策



12:30～13:30

小浜西組重要伝統的建造物群保存地区

三丁町から八幡神社にかけての約 19ha が
町並み保存地域となっています。

極楽寺



13:30～14:10

県指定 木造阿弥陀如来坐像

たくさんの文化遺産を持つ天台真盛宗とい
う小浜では珍しい宗派です。

空印寺



14:10～14:40

現地解散

市指定 酒井家墓所

小浜藩の酒井家歴代の菩提を弔う。空印寺
は初代藩主の酒井忠勝の戒名です。

重要文化財

はんじょうじほんどう

飯盛寺本堂



指定年月日	昭和58年1月7日
指定区分	重要文化財（建造物）
所在地	小浜市法海
所有者	高野山真言宗飯盛寺
時代	室町時代中期
構造等	入母屋造 茅葺

飯盛寺の創立年代は未詳ですが、寺に伝わる記録には約1300年前の奈良時代に椿林寺として創建されたと記しています。

さまざまな記録から、今から約650年前にはお寺の中に12坊を持つ大きな寺院として成立したことが判ります。しかしながら、1480年(文明16)に火災にあい、ほぼ全域を焼失。10年後の1490年(延徳1)に再建されたのが現在残る本堂です。

この本堂は、1995年から約4年の歳月をかけて解体修理されました。解体前は瓦葺きでしたが、調査の結果茅葺きに復元されました。市内の重要文化財のお寺はヒノキの皮を用いた桧皮葺きで、茅葺きの重要文化財は飯盛寺だけです(昨年、金屋の萬徳寺書院も優美な茅葺きに再現されました)。

解体修理の時に、お寺の中心の地下から約7万個の河原石に一字ずつお経の文字を記した一字一石経と呼ばれるものが埋められているのが確認されています。火災にあった本堂の再建にあたって、お寺が恒久的に守られていくよう祈った地域の人たちの篤い信仰を顧みることができます。

もくぞうせんじゅかんのりゅうぞう

飯盛寺 市指定

木造千手観音立像



指定年月日 昭和58年1月7日

飯盛寺のご本尊は薬師如来坐像です。本堂解体修理の際に像内が調査され、お経、香木、銅銭などが納められていました。この本尊の右脇に千手観音が静かに祀られています。大部分を一本の木から彫り出した一木造りで、平安時代後期の作と考えられ、お隣のおおい町にある意足寺の千手観音像と表現の仕方が似通っています。

高成寺 県指定

もくぞうせんじゅかんのりゅうぞう 木造千手観音立像



指定年月日	平成21年3月31日
指定区分	福井県指定文化財（彫刻）
所在地	小浜市青井
所有者	臨済宗南禅寺派高成寺
時代	平安時代前期
構造等	一木造り

高成寺は、約700年前の南北朝時代に、将軍の足利尊氏が全国に建立した安国寺の一つ、若狭国版です。このため、書状や画像など重要文化財の遺産を多く残しています。創建後すぐに堂宇は消失。再建した若狭守護の大高重成の各一字をとって高成寺として現在に至っています。

この千手観音像は、1997年から5か年かけて保存修理が実施され、小浜の中でも大変貴重な仏像であることが判明しています。

古記録によると、この像は、昔は遠敷にあって、ある時山伏が運び出し、紆余曲折を経て高成寺に安置されたとされています。この由来や像の古さから、もともとは若狭姫神社の本地仏（神の化身）であったのではないかと想像されます。

等身大の大きな仏像で、ヒノキの一木をほぼそのまま用いた大作です。非常に古い構造や表現で作られており、製作の時期は今から1200年前の9世紀前半の作と想定されます。

若狭地域には、9世紀にさかのぼる千手観音像は他になく、その由来などを考えても重要文化財に匹敵する極めて貴重な仏像です。

高成寺のその他の文化財

紙本墨書印可状

附 紙本墨書履踐集

紙本墨書大高重成書状

絹本着色大年和尚頂相図

絹本着色達磨大師像

折本紙本着色西天廿八祖之肖像

絹本着色地藏菩薩像

元方守端墨跡（送別語）

瑞方面山履踐集還入状（案）

重要文化財

書籍（南北朝時代）

福井県指定

絵画（南北朝時代）

小浜市指定

絵画（鎌倉時代末）

小浜市指定

絵画（南北朝時代）

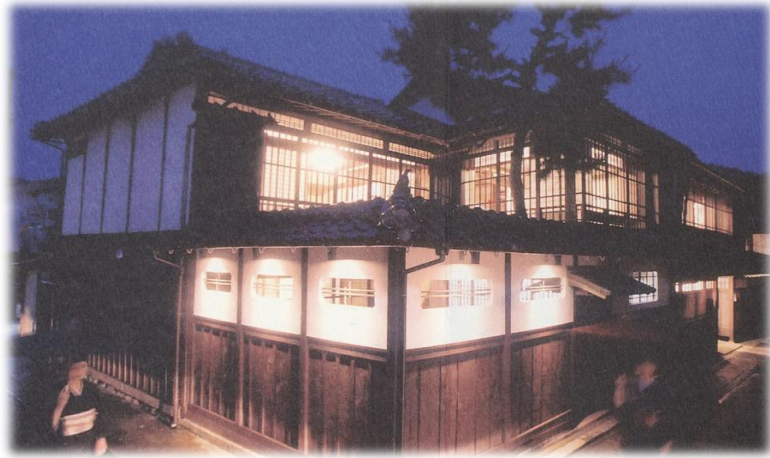
小浜市指定

書跡（南北朝時代）

小浜市指定

歴史（江戸時代）

四季彩館 ^{すい} 醉 ^{げつ} 月 (小浜市町並みと食の館)



通称三丁町は、江戸時代の獵師町・柳町・寺町の三町をまとめた呼び名であるとか、通りの長さが三町であるとか諸説があります。古くは西三町とも呼ばれていました。三丁町は、江戸時代から小浜城下町で唯一茶屋営業が許可されていた地域としてよく知られています。対比されるように、敦賀には茶屋町の四丁町がありました。

1858年(安政5)の『巡見使案内心得書』には「西三町 茶屋職 凡五十余軒」とあり、1920年(大正9)の『小浜案内』には「営業者四十二戸 芸妓五十名・・・」とあります。

現在もその面影を残す建造物は多くありますが、明治初期から営業していた旧料亭酔月は意匠や細工の質が高く、地域を代表する建造物として知られていました。そのような中、所有者のご理解をいただき、小浜市によって改装オープンしたのが「小浜市町並みと食の館」です。現在は指定管理者制度を導入し、「四季菜館 酔月」として営業されています。

古きよき時代の社交の場として賑わった三丁町。今も営業する料亭からは三味線の音が聞こえ、建物の修理修景が進むとともに、その賑わいが戻りつつあります。



おばまにしぐみじゅうようでんとうてきけんぞうぶつぐんほぞんちく
国選定 小浜西組重要伝統的建造物群保存地区



選定年月日：平成20年6月9日

区分：重要伝統的建造物群保存地区

所在地：飛鳥・香取・大原・浅間・貴船・白鳥・鹿島・男山のほぼ全域
青井・住吉・日吉・神田の一部

小浜市街地の西部、昔の丹後街道にそって残された風情ある町並みです。江戸時代、町人地を東・中・西の3組に分けた「西組」のほぼ全域の町並みが重伝建（じゅうでんけん）として選定されています。

若狭を東西に貫く丹後街道は、後瀬山トンネルができるまでこの町を通り、豊かな往来のもとに多くの営みがありました。街道沿いには商家町が広がり、後瀬山山麓には社寺が密集し寺町の風情を醸し出し、西端には茶屋町が軒を連ねます。

建物は平入りで間口が狭く奥に長い、いわゆるウナギの寝床と例えられる短冊形の家屋が連続して町並みを形成しています。ベンガラ塗りの格子戸と若狭瓦に守られた建物群が、城下町小浜の往時の繁栄を示しています。

地区内には、後瀬山城や若狭武田氏、京極氏、酒井氏など若狭国主に関連した寺院や、いまでも営業をする料亭など、小浜の歴史文化を肌で感じることでできる生きた文化遺産が多くあります。

全国80数か所ある重伝建地区においても、小浜西組はスタートをきったばかり。観光化された飛騨高山や妻籠宿、先行してまちづくりを進めるお隣の熊川宿とは違ったまちづくりの方針が、地元住民の中で意欲的に議論されています。

極楽寺 県指定

もくぞうあみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像



指定年月日	昭和32年3月11日
指定区分	福井県指定文化財（彫刻）
所在地	小浜市白鳥
所有者	天台真盛宗極楽寺
時代	鎌倉時代後期
構造等	寄木造り 漆箔仕上げ

極楽寺は、約500年前の室町時代中期に、天台真盛宗の開祖、円戒国師の弟子の真明によって開基されました。当初は、須崎町（現在の多賀区）にあり、約600年前に現在地に移されます。戦国時代、現在地は、後瀬山城に居住した若狭守護武田氏の家臣団が居住しており、若狭武田氏が滅

亡後に町場となるに従い、信者によって現在地に移されたのでしょうか。江戸時代の絵図によると、極楽寺の正面は水堀になっており、周辺は文殊丸町という地名です。「丸」は城の一角を示す言葉で、堀は重臣クラスの屋敷があったことを想定させる資料です。

さて、この極楽寺には、地方の仏像としては大作の阿弥陀如来坐像が安置されています。寄木造りで各部材は大変薄くつくっています。平安時代の仏像は曲線豊かふくよかに作りますが、鎌倉時代以降は直線的で男性的な作りに変わっていきます。

なお、以前は本堂の前右側に護摩堂があり、木造役行者坐像が祀られていました。これは山伏が中心となって信仰する修験道の開祖で、もとは青井の神明神社にあったようです。現在は、お水送りとも関係し、鶴の瀬にある鶴の瀬資料館に安置されています。

極楽寺のその他の文化財

絹本著色釈迦十六善神像	小浜市指定	絵画（室町時代前期）
絹本著色阿弥陀三尊来迎図	小浜市指定	絵画（室町時代前期）
絹本著色愛染明王像	小浜市指定	絵画（室町時代後期）

空印寺 市指定

さかいけぼしよ 酒井家墓所



指定年月日	昭和57年4月20日
指定区分	小浜市指定文化財（史跡）
所在地	小浜市男山
所有者	曹洞宗空印寺
時代	江戸時代

空印寺は、約350年前の江戸時代初めに創建された小浜藩酒井忠勝の菩提寺です。この空印寺と小浜小学校跡地は、戦国時代には若狭守護武田氏の居館があった若狭の中心地でした。

その後、京極家の泰雲寺、酒井家の健康寺を経て、小浜藩2代の酒井忠直が父酒井忠勝の菩提を弔うために堂宇を大改修したのが空印寺のはじまりです。酒井家墓所は、現在の本堂裏手にあり、本堂右手から参道が通じています。土塀により重厚に区画され、石畳や石灯ろうによって整備された墓地内に、歴代藩主や子女、分家の墓所を設けています。いずれの墓石とも蘇洞門産出の花崗岩を用いた壮大なもので、その絶大な権威を誇示しています。

空印寺はたび重なる大火により建物が被災していますが、創建当初の遺産として表門（薬医門）が残っています。ケヤキ造りの立派な門は、藩主酒井家の菩提寺としての権威の象徴ともいえます。

空印寺のその他の文化財

空印寺薬医門

小浜市指定 建造物（江戸時代）

紙本著色神明神社社頭風俗図

小浜市指定 絵画（江戸時代）

八百比丘尼入定洞



おまけのコーナー

おまけ その1 小浜市の歴史と文化を守る市民の会

小浜市には「小浜市の歴史と文化を守る市民の会」という市民団体があります。年間の各種イベントのお知らせ、会報誌、カレンダーの配布などを行っています。また、ご理解のいただける方には、各種イベントにボランティアスタッフとしてご参加いただいています。

年会費1,000円。どなたでもご入会いただけますのでお気軽に事務局までお問い合わせください。

おまけ その2 小浜市・若狭町歴史文化基本構想

これまでの文化遺産見学いかがでしたか？小浜には住む人も知らない貴重な文化遺産がたくさんあります。でも難しいですよ、歴史って。これらの個々の文化財を集め、わかりやすいストーリーのもと観光やまちづくりに活かしていこうという取り組みを若狭町と共同で実施しています。今後計画策定時にワークショップ等を開催しますので是非ご参加ください。

小浜が進める4つの歴史の柱

- ・ 小浜港町、城下町のにぎわい
- ・ 御食国のまちづくり
- ・ 鯖街道の往来まちづくり
- ・ 神仏習合の社寺やまつり、文化の伝承

おまけ その3 小浜ウエスト物語2010 秋

今秋、小浜西組の重伝建地区を舞台に、小浜ウエスト物語2010秋と題して、約1カ月にわたりギャラリーやフェスティバルが行われます。

すでに春の部が実施されたのでご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、秋の運営に際してボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は是非ご参加ください。

それぞれの事務局は・・・

小浜市教育委員会 文化遺産活用課

TEL 53-1111 / FAX 52-3223

MAIL rekishi@ht.city.obama.fukui.jp